

》 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」

実務家教員育成研修プログラム 実施4拠点統一指標による研修プログラム評価報告書

2023年7月1日

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営拠点
代表校（事務局）：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

4 拠点統一指標による研修プログラム評価 目次

1	取組概要	1
1.1	本取組の背景	1
1.2	文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」の中核拠点	1
1.3	4 拠点統一指標の開発プロセス	2
2	4 拠点統一指標による修了者アンケート調査	3
2.1	調査対象・方法	3
2.2	調査結果の概要	3
3	調査結果の考察と今後の課題	15
3.1	修了者アンケート調査結果の考察	15
3.2	今後の課題	16
	参考文献	16

1 取組概要

1.1 本取組の背景

本取組は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」¹（以下「事業」という）における研修プログラムの質保証に資する統一指標を開発し、これを用いて研修プログラムの評価を行うものである。

本統一指標開発の背景には、2022年6月に実施された文部科学省「行政事業レビュー」²での指摘がある。このレビューにおいては「目的達成のための適切な事業になっているか」「アウトカム・アウトプット・目標値は事業目的と成果の検証ができるよう適切に設定されているか」が論点とされ、「アウトカムの見直しを行うことはよいこと。ただし、単なるプログラム修了の満足度アンケートでは意味がない」との指摘がなされた。これを受け、当事業の4つの中核拠点で行われている研修プログラムのそれぞれに適用可能な「統一評価指標」として、単なる「満足度調査」を超え、各プログラムの質向上に資する「統一評価指標」を開発することとなった。

1.2 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」の中核拠点

当事業の4つの中核拠点を表1に示す。統一評価指標の開発にあたっては、「実務家教員育成・活用全国会議（第4回：2022年11月3日開催）」における議論をもとに、各中核拠点からの意見

表1. 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」における4つの中核拠点

拠点・研修プログラム名称	提供校
創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム 「産学連携教育イノベーター育成プログラム」	東北大学、熊本大学 大阪公立大学、立教大学
PBL と多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム構築事業 「進化型実務家教員養成プログラム」	名古屋市立大学、岐阜薬科大学 高知県立大学、中京大学
実務家教員 COE プロジェクト 「実務家教員養成課程」	社会構想大学院大学、日本女子大学 武蔵野大学、事業構想大学院大学
KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築 「実務家教員育成研修プログラム」	舞鶴工業高専、福島工業高専 長岡工業高専、福井工業高専 香川高専、放送大学

¹大学等において、個別の企業や業界を超えたオープンイノベーションを促進するため、社会人の学び直しも含め、産学がともに人材育成に主体的に参画し、実践的な産学共同教育の場やプログラムを提供するために不可欠な実務家教員（専攻分野における実務の経験及び高度の実務の能力を有する教員）の質・量の充実に資する取組を支援することを通じて、アカデミアと社会を自由に行き来できる学びと社会生活の好循環を醸成し、もって、中長期的かつ持続的に社会の要請に応えることができる産学共同による人材育成システムを構築することを目的とした事業（文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業 公募要領」https://www.mext.go.jp/content/20220125-mxt_senmon02-000019852_8.pdf、2023年5月23日確認）

²各府省自らが、実施している全ての事業を対象に、レビューシートを作成し執行状況を公表するとともに、外部の視点を活用しながら事業の点検を行い、結果を予算の概算要求や執行の改善に反映させる取組（文部科学省「行政事業レビュー」https://www.mext.go.jp/a_menu/kouritsu/detail/1334066.htm、2023年5月23日確認）

集約・反映を経て行った。

1.3 4 拠点統一指標の開発プロセス

統一評価指標の開発にあたっては、研修の効果測定に関する先行研究や事例(永野 (1984)、Philips (1997)、Kirkpatric・Kirkpatric (2005))を踏まえ、研修受講者の実際のパフォーマンス、意欲、方策、気づきを対象にした検証方法の提案がなされていることに基づき、各中核拠点からの意見を反映しつつ共同で検討を行った。

主には、研修の効果に関する研究(小菌・大内、2016)を参考に、研修受講者の「能力・態度」「学び」に影響を与える要因に着目し、修了者を対象としたアンケート調査項目を構成した。なお、調査項目の文脈は実務家教員養成にひきつけ、「職場環境」に代えて「現職への影響」という項目(研修での学びの現職への波及効果についての問い)を新設するとともに、「上司支援(上司が研修内容を理解しているか、等)」を項目から除外した。作成した統一評価指標の調査項目を表2に示す。

表2. 4 拠点統一指標による研修プログラム評価のための調査項目

領域	項目
学習レディネス	1. 受講前に、これから受講する研修プログラムの必要性を感じていた
	2. 受講前に、どのような目的で研修プログラムが実施されるのか理解していた
実践意思	3. 受講後、研修プログラムで学んだことを職場や教育現場等で実践する機会を作ろうと努力した
	4. 受講後、研修プログラムで学んだことを職場や教育現場等で実践する機会があった
	5. 受講を契機に、高等教育機関等でのキャリア・チェンジに向けた動きを始めた又は本格化した
研修メンバー	6. 受講中、一緒に参加した受講生から学んだことがあった
	7. 受講中、一緒に参加した受講生は自分の学習意欲により影響を与えた
受講環境	8. 研修プログラムに積極的に参加できた
	9. 受講中は、思っていることを自由に発言できる雰囲気であった
実践レディネス	10. 受講により、高等教育の現状についての知識が増えた
	11. 受講により、授業設計や運営に必要なスキル・知識が身についた
	12. 受講により、高等教育に対して関心が向くようになった
成長意欲	13. 今後も継続して、知識やスキルを修得したり能力を高めて、成長したいと思っている
	14. 今後も継続して、高等教育についてもっと学びたい、研究したいと思っている
研修マッチング	15. 受講中、自分のキャリアにとっていいタイミングで受講していると思った
	16. 受講中、研修プログラムの難易度は自分に適したレベルだと思っていた
	17. 受講中、研修プログラムは自分が学びたいと思っていた内容だった
	18. 研修プログラムの受講は、有意義だった
職場への影響	19. 研修プログラムでの学びや経験は、今後の学習や活動に役立つと思う
	20. 研修プログラムで学んだ知識やスキルには、現在の職場においても活用できるものがあった
	21. 研修プログラムに参加したことで、現在の仕事に何らかのプラスの影響があった
研修後交流	22. 受講後、他の受講生と研修内容に関する情報交換を行った
	23. 受講後、他の受講生と研修内容以外の情報交換を行った

2 4 拠点統一指標による修了者アンケート調査

2.1 調査対象・方法

本調査は、4 拠点が合同で開発した統一指標を用いて各研修プログラム修了者を対象としたアンケート調査を実施し、研修プログラムの評価、改善に活かすことを目的としている。

調査対象は各研修プログラム修了者（2019～2022 年度）とし、各拠点からメールにて回答を依頼した。アンケートフォームは Google Forms を利用して構成し、修了者に回答 URL を周知した。調査期間は 2023 年 4 月 17 日～5 月 11 日の約 5 週間とした。

調査冒頭で回答者の属性に関する項目（修了プログラム名、修了年度、性別、年代、業種、職種、役職、高等教育への参与有無）を設定したうえで、表 2 に示した質問項目について「そう思う／ややそう思う／どちらともいえない／ややそう思わない／思わない」の 5 件法で回答を得た。

2.2 調査結果の概要

本調査の回答数は 344 件、回答率は 49.9%であった（表 3）。

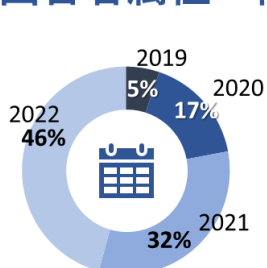
表 3. 修了者アンケート調査の回答数

プログラム名	回答者数	修了者数	%
産学連携教育イノベーター育成プログラム (東北大学等)	154	235	65.5%
進化型実務家教員養成プログラム (名古屋市立大学等)	15	23	65.2%
実務家教員養成課程 (社会構想大学院大学等)	157	411	38.2%
実務家教員育成研修プログラム (舞鶴高等専門学校等)	18	21	85.7%
合計	344	690	49.9%

回答者の属性と各項目への回答の単純集計結果を拠点ごとにまとめた図表を以下に示す。

5 件法で回答を得た項目については、「そう思う」を 5 点～「そう思わない」を 1 点として集計し、平均値を得た。

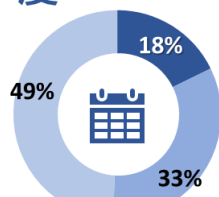
回答者属性：修了年度



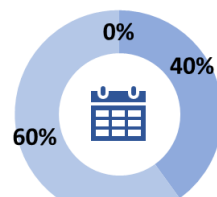
【4プログラム全体】

	2019	2020	2021	2022	合計
東	0	27	52	75	154
名	0	0	6	9	15
社	17	31	42	67	157
舞	0	0	11	7	18
合計	17	58	111	158	344

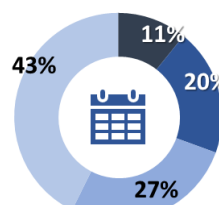
※修了年度は回答者の回答内容に基づく



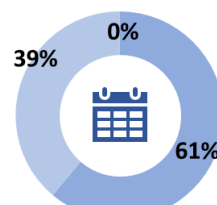
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

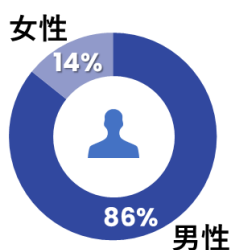


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



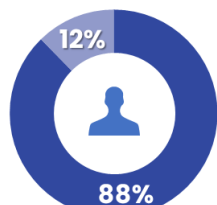
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

回答者属性：性別

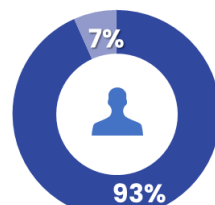


【4プログラム全体】

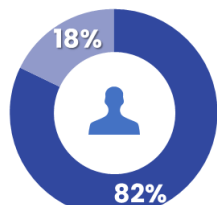
	男性	女性	合計
東	135	19	154
名	14	1	15
社	129	28	157
舞	17	1	18
合計	295	49	344



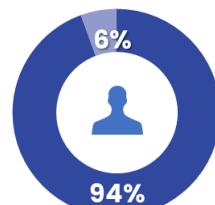
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

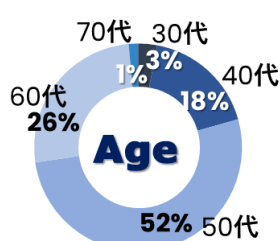


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



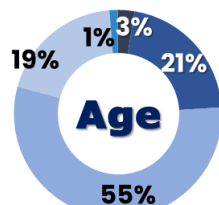
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

回答者属性：年齢

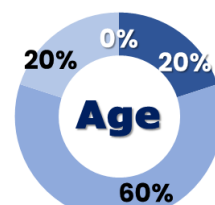


【4プログラム全体】

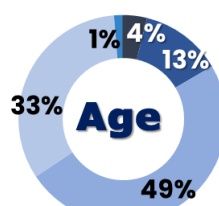
	30代	40代	50代	60代	70代	合計
東	4	33	85	30	2	154
名	0	3	9	3	0	15
社	6	20	77	52	2	157
舞	0	5	8	4	1	18
合計	10	61	179	89	5	344



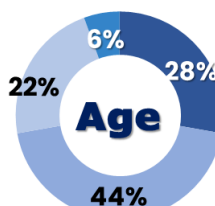
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

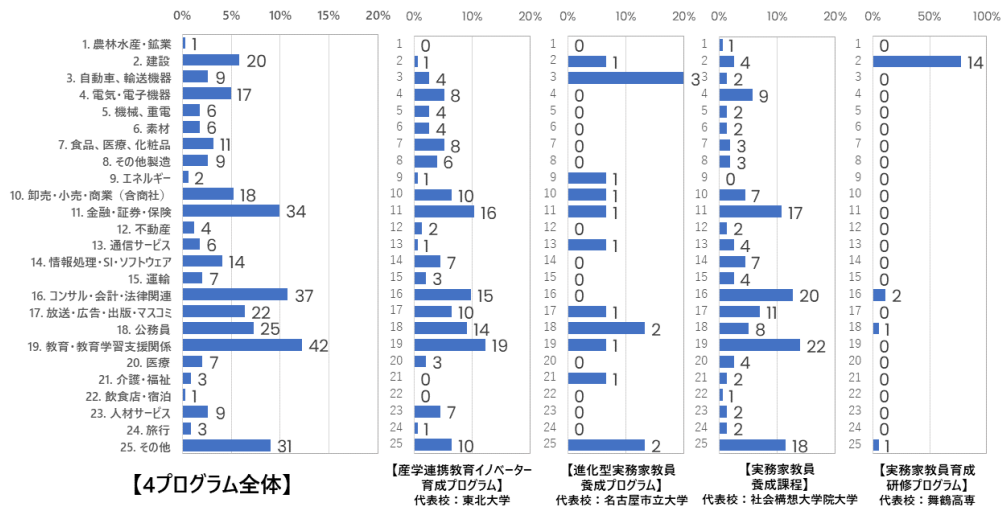


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学

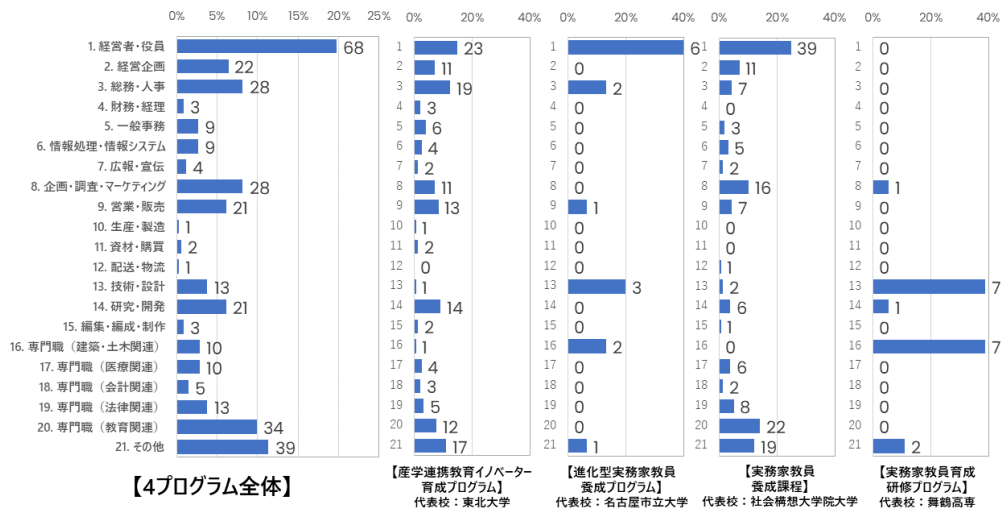


【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

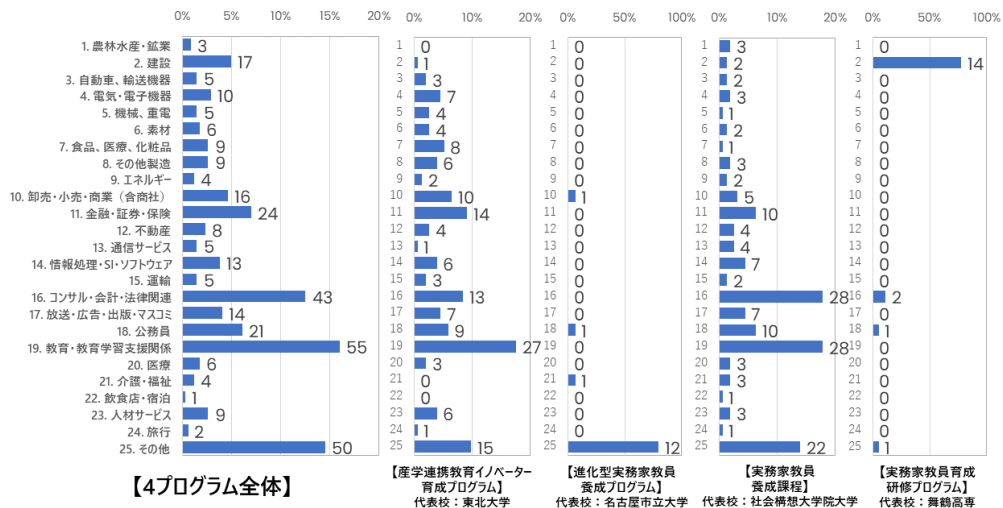
回答者属性：受講開始時の職業（業種）



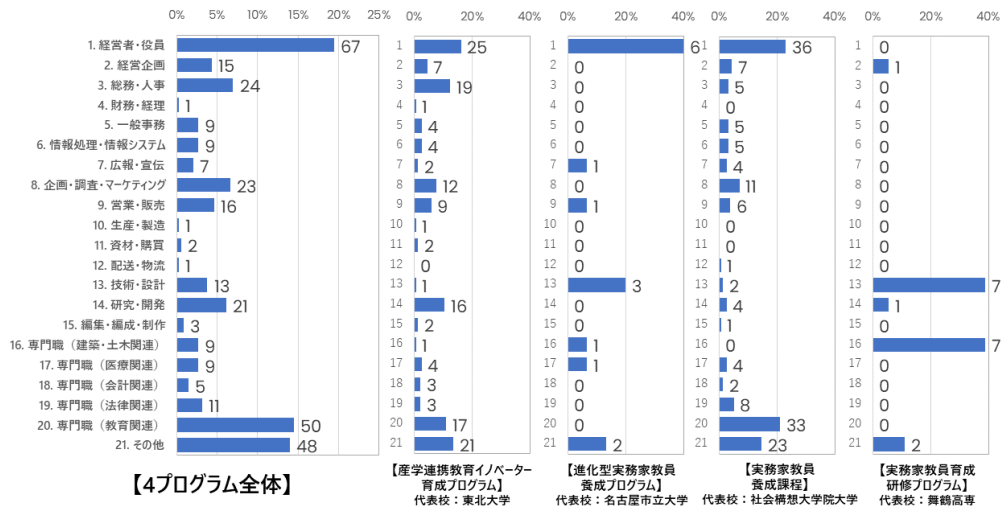
回答者属性：受講開始時の職業（職種）



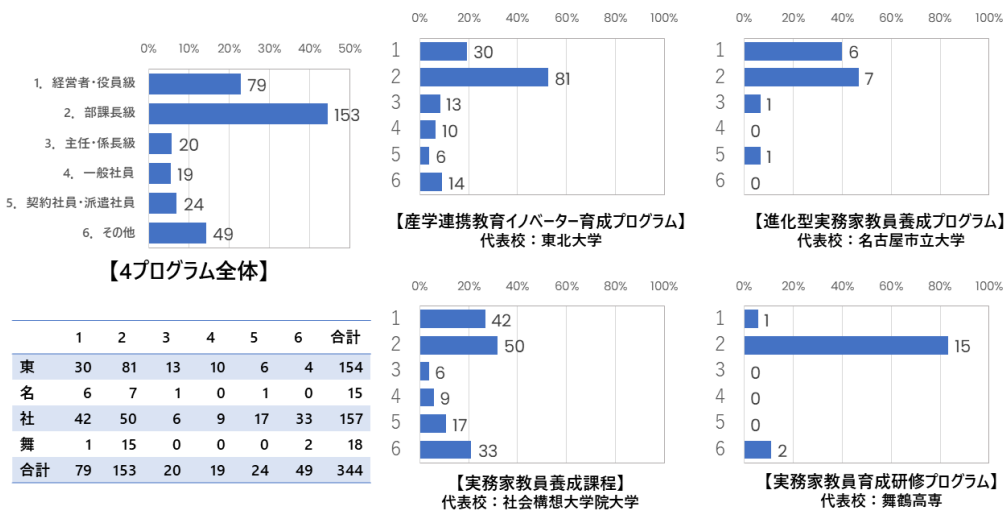
回答者属性：現在の職業（業種）



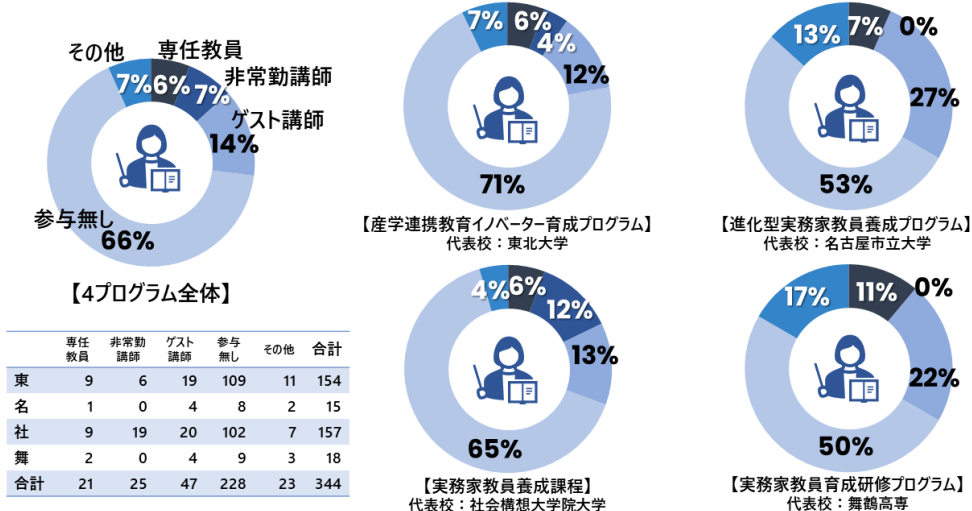
回答者属性：現在の職業（職種）



回答者属性：現在の役職

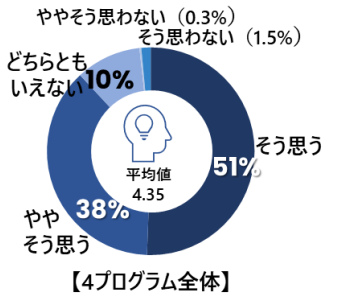


回答者属性：現在の高等教育への参与状況

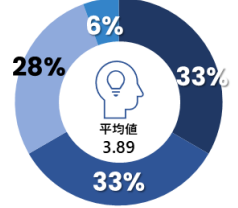
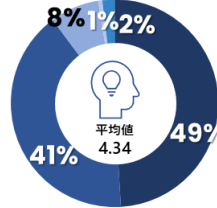
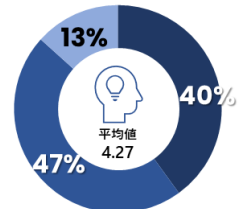
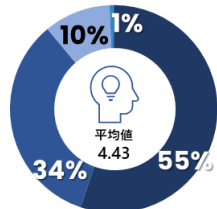


【学習レディネス】に関する問いへの回答

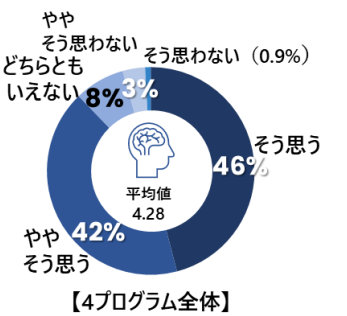
①受講前に、これから受講する研修プログラムの必要性を感じていた



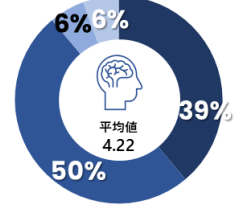
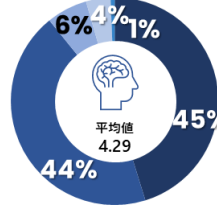
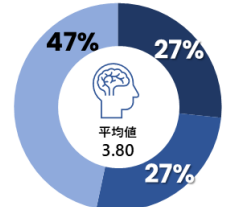
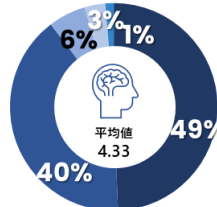
	必要でない	どちらともいえない	必要	必要	合計
東	1	0	16	52	85
名	0	0	2	7	6
社	3	1	12	64	77
舞	1	0	5	6	6
合計	5	1	35	129	174



②受講前に、どのような目的で研修プログラムが実施されるのか理解していた

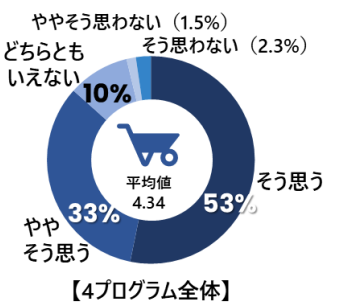


	必要でない	どちらともいえない	必要	必要	合計
東	2	5	9	62	76
名	0	0	7	4	4
社	1	6	10	69	71
舞	0	1	1	9	7
合計	3	12	27	144	158

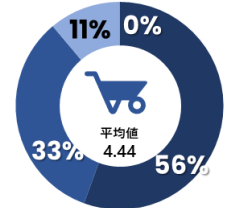
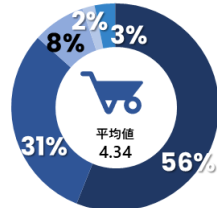


【実践意思】に関する問いへの回答

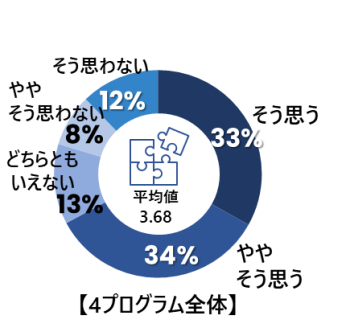
③受講後、研修プログラムで学んだことを職場や教育現場等で実践する機会を作ろうと努力した



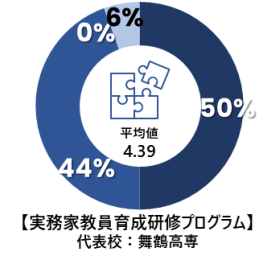
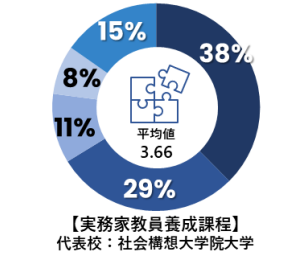
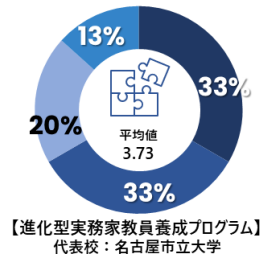
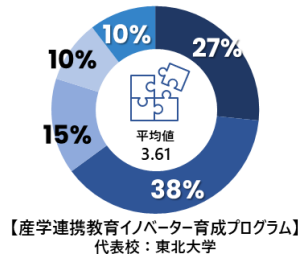
	必要でない	どちらともいえない	必要	必要	合計
東	2	2	16	55	79
名	1	0	2	6	6
社	5	3	13	48	88
舞	0	0	2	6	10
合計	8	5	33	115	183



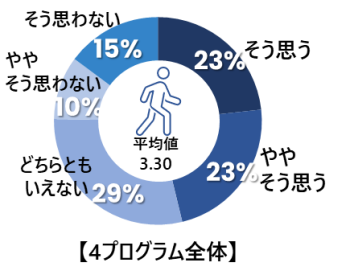
④ 研修プログラムで学んだことを職場や教育現場等で実践する機会があった



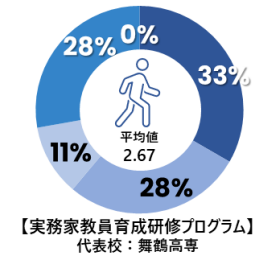
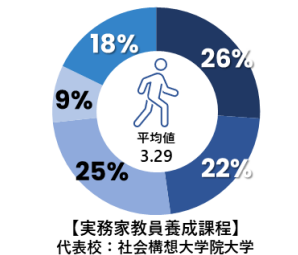
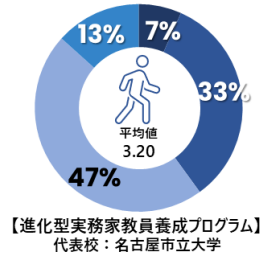
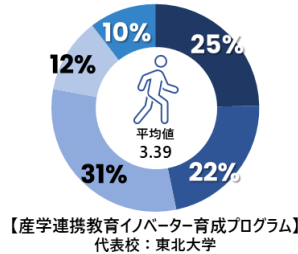
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	16	15	23	59
名	2	0	3	5
社	24	12	17	45
舞	0	1	0	9
合計	42	28	43	114



⑤ 受講を契機に、高等教育機関等でのキャリア・チェンジに向けた動きを始めた又は本格化した

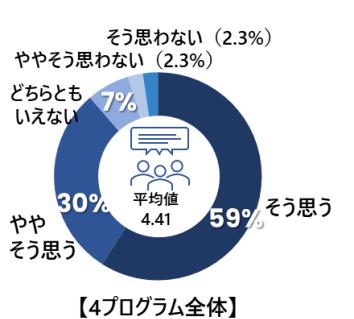


	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	16	18	48	34
名	2	0	7	5
社	28	14	40	34
舞	5	2	5	6
合計	51	34	100	79

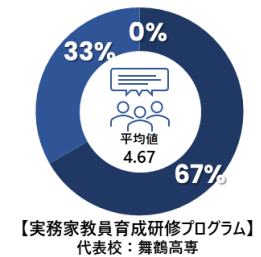
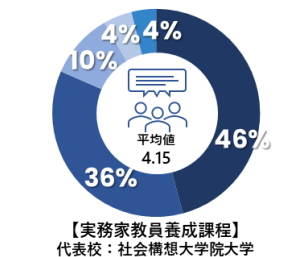
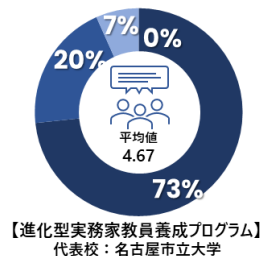
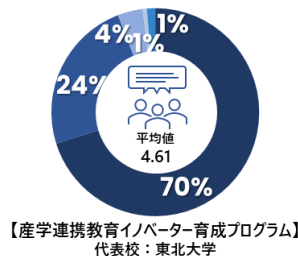


【研修メンバー】に関する問いへの回答

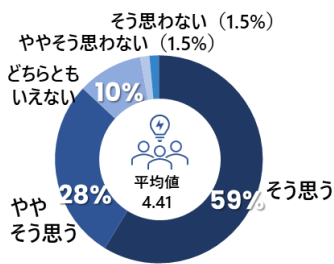
⑥ 受講中、一緒に参加した受講者から学んだことがあった



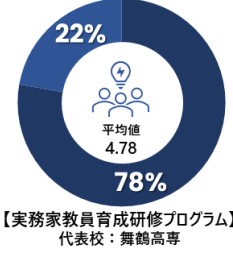
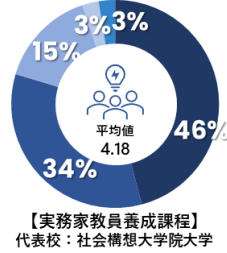
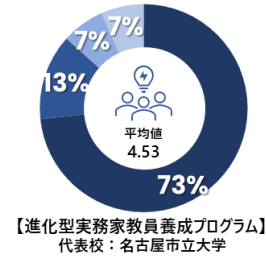
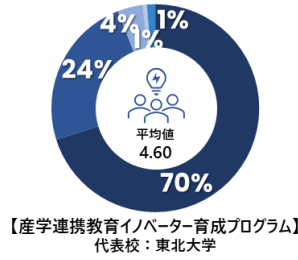
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	2	1	6	37
名	0	0	1	3
社	6	7	16	56
舞	0	0	0	6
合計	8	8	123	102



⑦ 受講中、一緒に参加した受講者は自分の学習意欲により影響を与えた

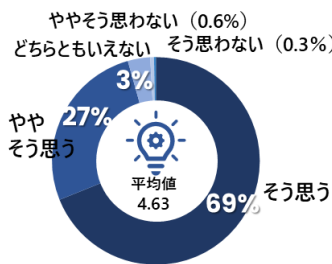


	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	1	0	10	11
名	0	1	1	2
社	4	4	24	32
舞	0	0	0	0
合計	5	5	35	45

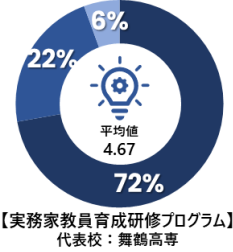
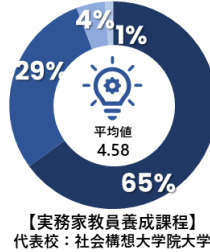
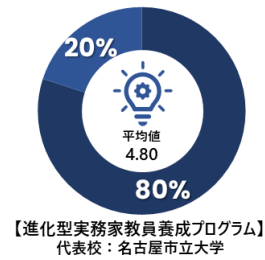
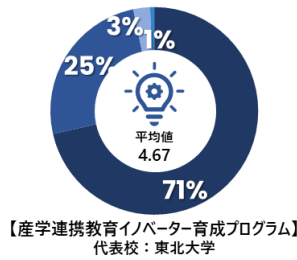


【受講環境】に関する問いへの回答

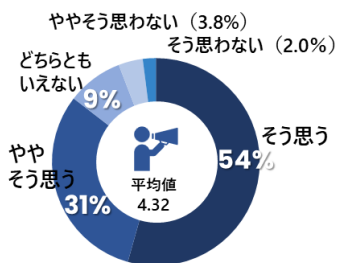
⑧ 研修プログラムに積極的に参加できた



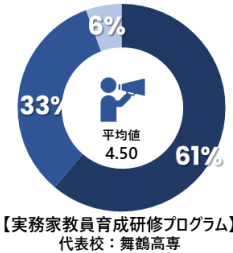
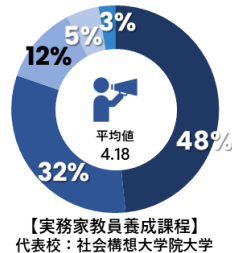
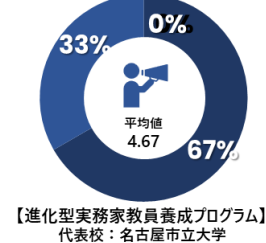
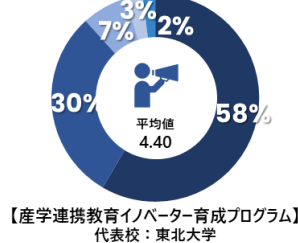
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	1	0	4	5
名	0	0	0	0
社	0	2	7	9
舞	0	0	1	1
合計	1	2	12	15



⑨ 受講中は、思っていることを自由に発言できる雰囲気であった

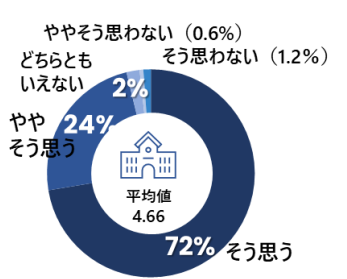


	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	3	4	11	18
名	0	0	0	0
社	4	8	19	31
舞	0	1	0	1
合計	7	13	30	50

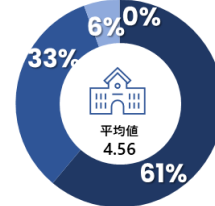
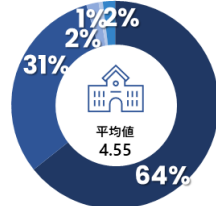
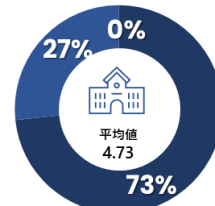
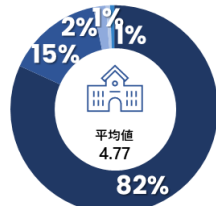


【実践レディネス】に関する問いへの回答

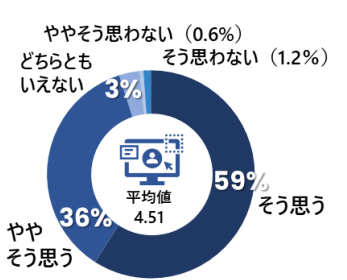
⑩ 受講により、高等教育の現状についての知識が増えた



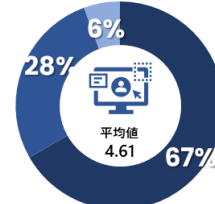
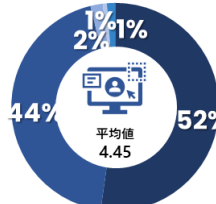
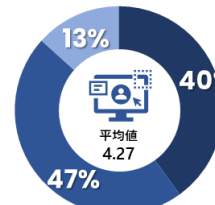
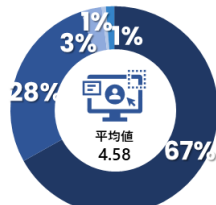
	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	1	1	23	154
名	0	0	4	15
社	3	1	49	157
舞	0	0	6	18
合計	4	2	82	344



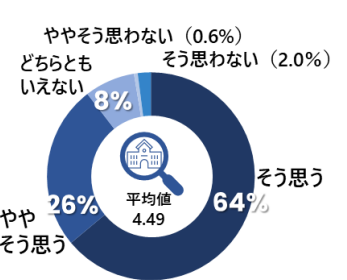
⑪ 受講により、授業設計や運営に必要なスキル・知識が身についた



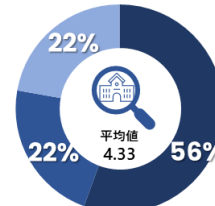
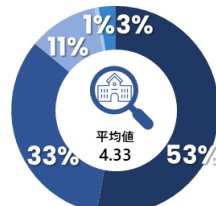
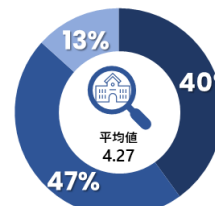
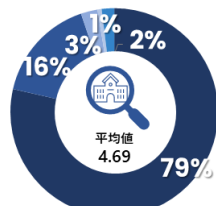
	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	2	1	43	154
名	0	0	7	15
社	2	1	69	157
舞	0	0	5	18
合計	4	2	124	344



⑫ 受講により、高等教育に対して関心が向くようになった

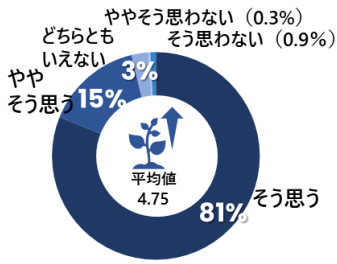


	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	3	1	25	154
名	0	0	7	15
社	4	1	52	157
舞	0	0	4	18
合計	7	2	88	344



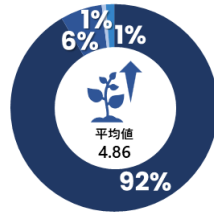
【成長意欲】に関する問いへの回答

⑬ 今後も継続して、知識やスキルを修得したり能力を高めて、成長したいと思っている

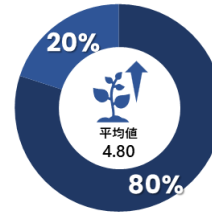


【4プログラム全体】

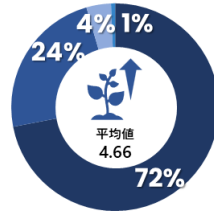
	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	2	1	0	10
名	0	0	0	3
社	1	0	6	37
舞	0	0	3	2
合計	3	1	9	152



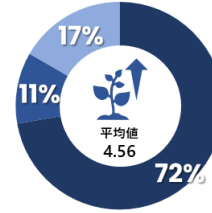
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

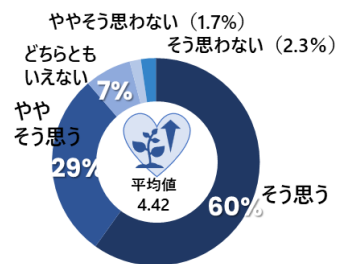


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



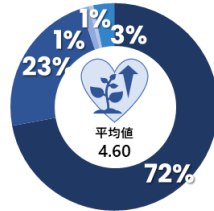
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

⑭ 今後も継続して、高等教育についてもっと学びたい、研究したいと思っている

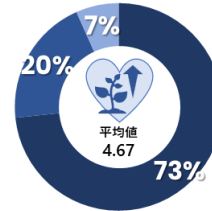


【4プログラム全体】

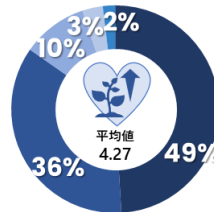
	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	5	1	2	35
名	0	0	1	3
社	3	5	16	56
舞	0	0	6	5
合計	8	6	25	99



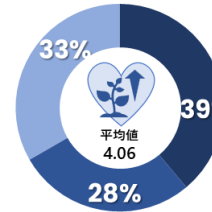
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学



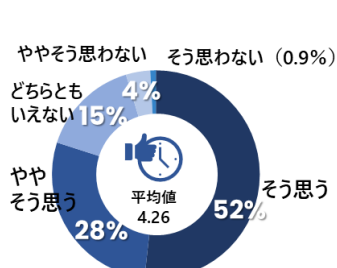
【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

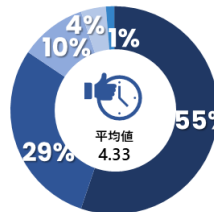
【研修マッチング】に関する問いへの回答

⑮ 受講中、自分のキャリアにとっていいタイミングで受講していると思った

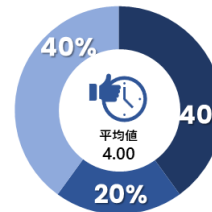


【4プログラム全体】

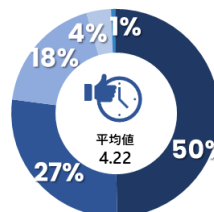
	思わない	どちらとも	そう思う	合計
東	2	6	16	45
名	0	0	2	1
社	1	6	29	43
舞	0	1	2	6
合計	3	13	53	97



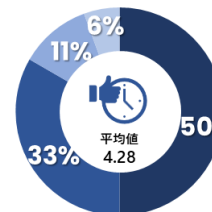
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

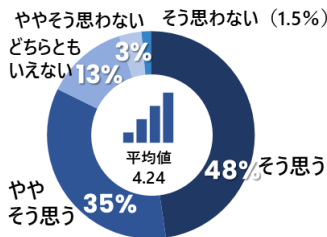


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



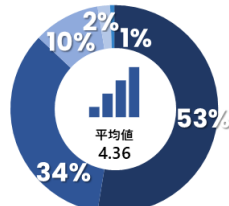
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

⑩ 受講中、研修プログラムの難易度は自分に適したレベルだと思っていた

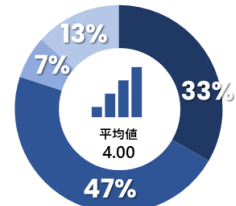


【4プログラム全体】

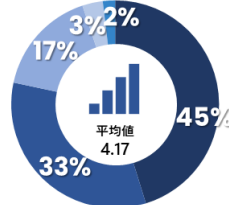
	思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う	合計
東	1	3	16	53	154
名	0	2	1	7	15
社	3	5	26	52	157
舞	1	2	1	7	18
合計	5	12	44	119	164



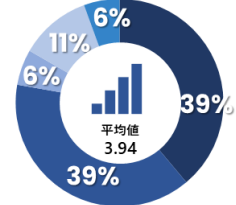
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

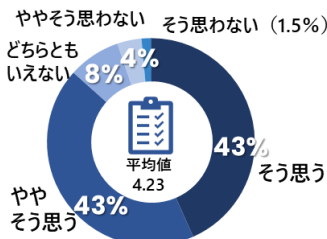


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



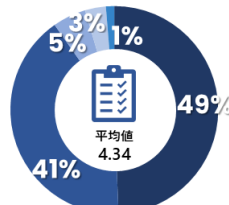
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

⑪ 受講中、研修プログラムは自分が学びたいと思っていた内容だった

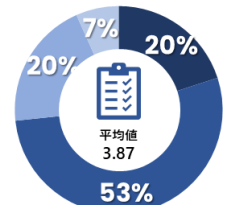


【4プログラム全体】

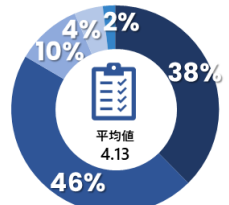
	思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う	合計
東	1	1	3	23	154
名	0	0	0	4	15
社	3	1	3	49	157
舞	0	0	1	6	18
合計	4	2	7	82	249



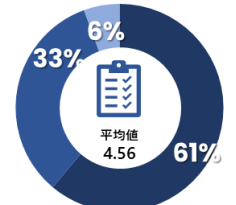
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

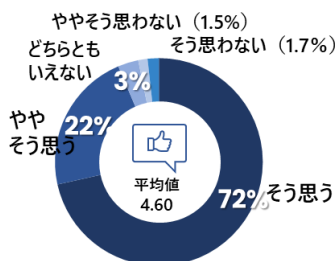


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



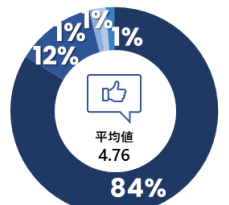
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

⑫ 研修プログラムの受講は、有意義だった

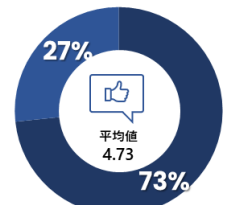


【4プログラム全体】

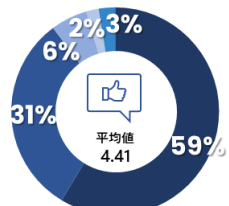
	思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う	合計
東	2	2	2	19	154
名	0	0	0	1	15
社	4	3	9	49	157
舞	0	0	0	4	18
合計	6	5	11	76	246



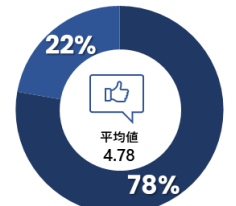
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

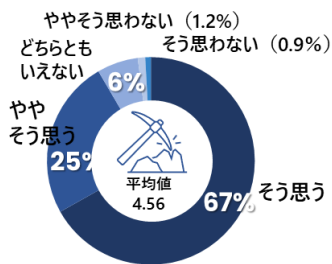


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



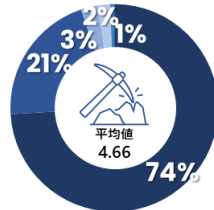
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

⑲ 研修プログラムでの学びや経験は、今後の学習や活動に役立つと思う

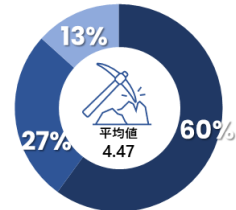


【4プログラム全体】

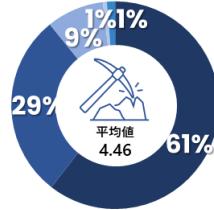
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	1	3	4	32
名	0	0	2	4
社	2	1	14	45
舞	0	0	2	4
合計	3	4	22	85



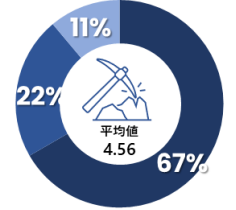
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
 代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
 代表校：名古屋市立大学



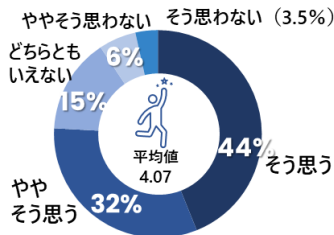
【実務家教員養成課程】
 代表校：社会構想大学院大学



【実務家教員育成研修プログラム】
 代表校：舞鶴高専

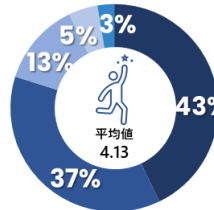
【職場への影響】に関する問いへの回答

⑳ 研修プログラムで学んだ知識やスキルには、現在の職場においても活用できるものがあつた

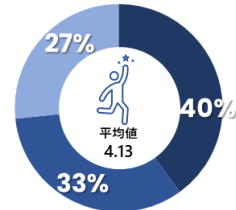


【4プログラム全体】

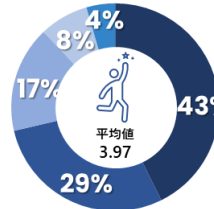
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	4	7	20	57
名	0	0	4	5
社	7	12	26	45
舞	1	1	1	3
合計	12	20	51	110



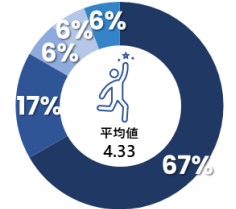
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
 代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
 代表校：名古屋市立大学

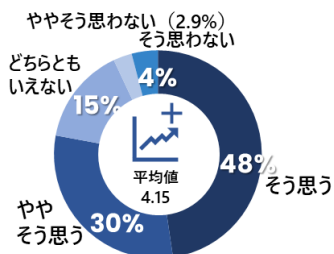


【実務家教員養成課程】
 代表校：社会構想大学院大学



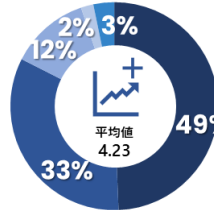
【実務家教員育成研修プログラム】
 代表校：舞鶴高専

㉑ 研修プログラムに参加したことで、現在の仕事に何らかのプラスの影響があつた

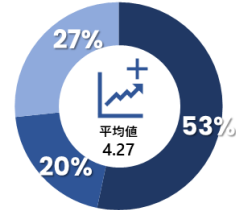


【4プログラム全体】

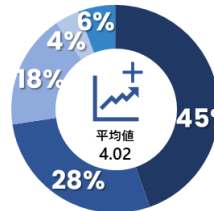
	思わない	どちらともいえない	そう思う	合計
東	5	3	19	51
名	0	0	4	3
社	9	6	28	44
舞	0	1	1	6
合計	14	10	52	104



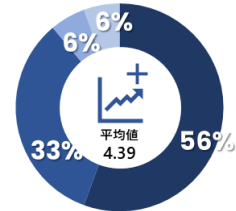
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
 代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
 代表校：名古屋市立大学



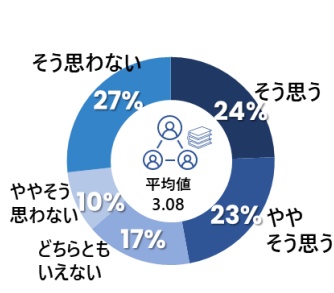
【実務家教員養成課程】
 代表校：社会構想大学院大学



【実務家教員育成研修プログラム】
 代表校：舞鶴高専

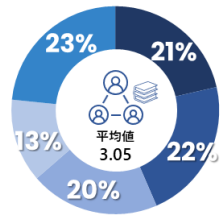
【研修後交流】に関する問いへの回答

② 受講後、他の受講者と研修内容に関する情報交換を行った

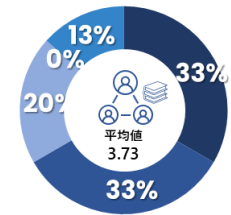


【4プログラム全体】

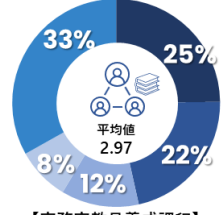
	思わ ない	どち らと も	そ う 思 う	合 計
東	36	20	31	34
名	2	0	3	5
社	52	13	19	34
舞	2	0	4	5
合計	92	33	57	78



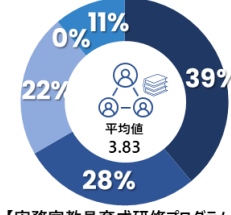
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学

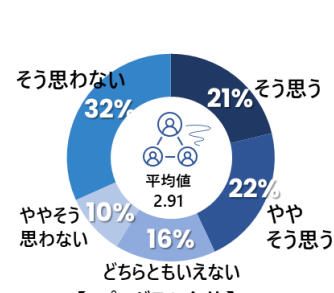


【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



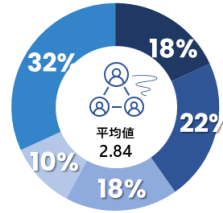
【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

③ 受講後、他の受講者と研修内容以外の情報交換を行った

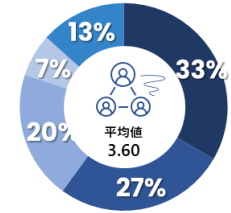


【4プログラム全体】

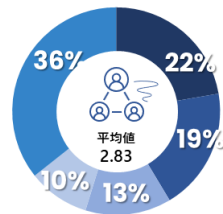
	思わ ない	どち らと も	そ う 思 う	合 計
東	49	16	27	34
名	2	1	3	4
社	56	15	21	30
舞	2	1	3	5
合計	109	33	54	75



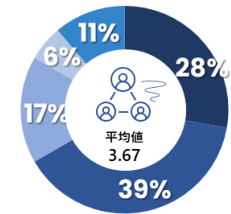
【産学連携教育イノベーター育成プログラム】
代表校：東北大学



【進化型実務家教員養成プログラム】
代表校：名古屋市立大学



【実務家教員養成課程】
代表校：社会構想大学院大学



【実務家教員育成研修プログラム】
代表校：舞鶴高専

3 調査結果の考察と今後の課題

3.1 修了者アンケート調査結果の考察

回答者属性からは、改めて各拠点が提供する研修プログラムの対象の特徴やその違いが読み取れる結果（業種、職種など）が得られるとともに、事業全体としての概要の把握に資するデータが得られた。また、回答者の27%が専任教員、非常勤講師、ゲスト講師などで高等教育に関わっていることがわかった。

「学習レディネス」については、回答の平均値が4.35、4.28と比較的高く、修了者は受講前の時点で研修プログラムの必要性や内容について十分認識していたことがわかった。

「実践意思」について、「学んだことを職場や教育現場で実践する機会を作ろうとした」は4.34と比較的高く、修了者が研修プログラムで学んだことを実践に活かしたいという意欲を持ち、行動に移そうとしていることが明らかになった。これに対し、実際に「実践する機会があった」は3.68にとどまった。また「受講を契機にキャリア・チェンジに向けた動きを始めた」は3.30となり、修了者の過半数は、必ずしも研修プログラム修了後即座に実務家教員としての採用に向けて動いているわけではないことがわかった。

「研修メンバー」については、4.41、4.41となり、研修プログラムにおける他の受講者との学びや交流は、好意的に評価されていることがわかった。

「実践環境」については、4.63、4.32と比較的高い値となっており、研修プログラムの雰囲気や自身の積極性についても、肯定的に評価されていることがわかった。

「実践レディネス」については、4.66、4.51、4.49に達し、受講により高等教育の現状を理解し、授業設計や運営に必要なスキル・知識を身につけることができた実感されていること、また、高等教育に関心が向くようになったと評価されていることが明らかになった。

「成長意欲」については、4.75、4.42と高い値となり、修了者の多くが今後も継続して学びたい、研究したいと思っていることがわかった。

「研修マッチング」については、「タイミング」4.26、「レベル」4.24、「内容」4.23とそれぞれ肯定的に評価されており、修了者は自身のニーズにあった研修プログラムを自身にあったタイミングで受講できたと認識していることがわかった。また、研修プログラムの「有意義性」については4.60、「今後の学習や活動に役立つと思う」は4.56に達し、成人学習やリスキリングの文脈においても意義を感じる研修プログラムを提供できていることが推察できる結果となった。

「職場への影響」については、4.07、4.15と比較的高く、必ずしも高等教育現場における実践の機会が得られていなくとも、現在の職場において何らかの好ましい影響をもたらすものであったと評価されていることがわかった。

「研修後交流」については、3.08、2.91にとどまった。修了者のキャリア志向や在住地、交流に関する積極性は多様であることがうかがわれるため、画一的な交流支援は必ずしも効果的でないと考えられるが、修了者を巻き込んだ研修プログラム運営や同窓生活動など、今後工夫の余地がある領域であるといえる。

以上のように、研修プログラムに対する修了者の評価は概ね好評であることが明らかになったとともに、今後のさらなる分析をもとにした具体的な改善策などを検討するための基礎的なデータを収集することができたといえる。

3.2 今後の課題

最も早くは 2019 年度に開始された当事業の研修プログラム修了者 4 過年度分を一挙に対象として行った今回の調査では、修了年度が早いほど回答率が低い傾向が顕著となり、追跡調査や経年変化をみとることの困難さを再確認する結果となった。研修プログラム修了直後の修了者アンケートは各拠点でそれぞれ実施しているものがある。今回開発した統一指標による調査については、プログラムでの学びが研修後職場で活かすことができているか等、修了から一定期間経過後に実施することが望ましい調査項目も含まれていることから、修了後の適切な時期を見定めて継続的に調査を行っていく必要があるといえる。

また、本報告では修了者アンケート調査の単純集計結果を明らかにしたが、今後は研修プログラム別に修了年度や修了コース別の分析等を行うことで、より詳細を明らかにすることが可能であると考えられる。

今回開発した統一評価指標が研修プログラムの質向上に役立てられることを願っている。

参考文献

- Kirkpatric, D. L. and J. D. Kirkpatric (2005), “Evaluating Training Programs: The Four Levels”, Berrett-Koehler Publishers.
- Philips, Jack J. (1997), “Handbook of Training Evaluation and Measurement Methods”, Gulf Publishing Company. (渡辺直登, 外島裕監訳『教育研修効果測定ハンドブック』日本能率協会マネジメントセンター, 1999)
- 小菌・大内 (2016) 「能力・態度における研修効果に影響を与える要因とその関連性」、日本労務学会誌、17 巻、1 号、pp.50-68.
- 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業 公募要領」
https://www.mext.go.jp/content/20220125-mxt_senmon02-000019852_8.pdf、2023 年 5 月 23 日確認)
- 文部科学省「行政事業レビュー」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kouritsu/detail/1334066.htm、2023 年 5 月 23 日確認)
- 永野仁 (1984) 「企業内教育の効果」『三田商学研究』27 巻 1 号、pp.89-99.